

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	山崎 圭		
NAME	YAMAZAKI KEI		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

近世信濃の幕府領を中心とした地域の災害と社会変動に関する研究

2. 研究期間

2020・2021・2022年度 ※2022年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究では、近世信濃の幕府領を中心とした地域において、自然災害に対して地域社会がどのように対応し、その過程で地域自体がどのように変容を迫られたのか、また地域を支配する幕府がどのように対応したのか（その対応のあり方が近代とどのように異なるのか）を、地域社会論の分析方法にもとづき解明することを目的とした。これまで関連付けが不十分であった災害史研究と地域社会論を結び付けて論じることが、双方の研究にとって意義を持つと考える。

本研究の期間中はコロナ渦と重なっていたこともあり、必ずしも十分な史料調査ができたわけではなかったが、研究開始以前に調査・撮影を済ませていた史料も含めて検討を行い、概ね次の点を確認することができた。近世の千曲川は氾濫をくり返し、頻繁に水害を発生させたが、被害の状況は場所によってかなり異なるため、地域全体で一致した水害対策を立てることが難しかった。一方、この地域の支配関係が複数にまたがっているため、領主が地域内での利害調整を行うことはできず、幕府も幕末段階では利害調整や治水事業を実施することはできなかった。利害調整や治水事業に乗り出したのは、水害時に小作料減免要求を突きつけられる地域の豪農たちであった。以上の研究成果の一部が、信濃毎日新聞社のインタビューにより特集記事「守り継ぐ 長沼 被災資料が映す歴史 上」として信濃毎日新聞3月10日朝刊に紹介された。

（英文）

In the early modern period, the Chikuma River repeatedly flooded, but the degree of damage differed considerably depending on the location, making it difficult to develop consistent flood control measures for the entire region. On the other hand, the feudal lords at the end of the Tokugawa shogunate were unable to coordinate interests within the region, and it was the wealthy farmers in the region, who were forced to demand reductions in rent during floods, that embarked on the coordination of interests and flood control projects.